

松原俊雄 狛江市長の挨拶

皆さま、こんにちは。

今日は本当に暑い中、このように多くの方が集まりいただきまして、こまえ平和フェスタに参加されていることに心より御礼申し上げますとともに、このフェスティバルがずっと続いていることに実行委員会の皆さまに感謝申し上げます。狛江市でも私が職員でいた頃から市民の皆さんと続けていて、今も継続して頂いていることに本当にうれしく思っている次第です。

先の大戦からもう74年ということで、当時を覚えている方、体験された方、悲惨な思いをされた方がだんだん居なくなってきた、悲惨な大戦を忘れかけているということもあります。これをしっかりとつないでいくことが私たちの役目だと思います。

この時期になりますと、終戦記念日、この前後に戦争の悲惨さなどいろいろと話題になる訳でございます。先日、テレビの情報番組を見ましたら、残留された日本人ということでも皆さまもご承知のことと思いますが、中国が多い中で、フィリピンが2番目だと報道もありました。その中で残留日本人の妻ということで、旦那さんは日本に強制送還されて、残されて、お子さんも残されて、いま74年もたつとお母さんは亡くなっている方が多くなり、その2世がいま残っているということで、調査によると3,500名以上フィリピンにはいらっしゃる。その中で2,500人位は残留2世がいて日本国籍の復権を望んでいるところですが、でも、年を取ってしまっていて、こういうことも政府として早めに対応していかなくてはならないと思います。また、世界を見ますとどうしても悲惨なことがあります。テロ、あるいは内紛によって自分たちが関わらなくてもいい子どもたちまで悲惨な思いをさせてしまっている。日本でも平和といわれている中でも、やはり悲惨な事故、事件があります。そう言った部分もしっかりと解消して、平和である日本、そして世界、こういったことも狛江市から皆さんとともに発信をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。今日は午後のひとときですが、平和ということをもう一度このフェスティバルの中から感じていただきまして、家族、ご友人などとお話をしていただきまして、平和の大事さ、尊さを皆さま方と共有して行きたいと思ひまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

今日はごゆっくりお過ごしいただきたいと思ひます。

